

## 聖書は死についてなんと教えているか

### イントロ

(1) 1891年、Charles Augustus Briggs, Union Theological Seminary (NY)

- \* 真理の源：聖書、教会、理性
- \* 旧約聖書の預言は成就しなかったばかりか、反対のことも起こっている。
- \* モーセの五書の著者がモーセであるかどうか疑問。
- \* イザヤ書の統一性
- \* 救われないで死んだ人に第二のチャンス
- \* 聖化は死で完成しない。

(2) 1920年、モダニスト（リベラル）対ファンダメンタリストの論争

- \* 聖書の靈感
- \* 処女降誕
- \* イエスの身代わりの死
- \* 復活
- \* 奇跡

(3) 1940年代、エキュメニカル運動

(4) 第2バチカン公会議（1962～65）

(5) 日本の福音派の中の「死後に救いはあるか？」という論争

- \* クリスチャーの死生観の変化の可能性
- \* 礼拝や祈りの変質の可能性
- \* 背水の陣で行ってきた伝道への影響
- \* 聖書の読み方の変質（恣意的、主観的）

## ．死後の救いについて

### 1．陰府（シェオル）の理解

- \* ルカ 16：19～31「アブラハムのふところ」と「苦しみ場所」
- \* イエスの召天により「アブラハムのふところ」は天に上げられた。「パラダイス」
- \* 最終状態は、聖なるエルサレムか地獄（ゲヘナ）である。
- \* 陰府は「留置場」ではない。

### 2．ピリピ 2：10～11

### 3．黙示録 5：13

- \* ともに文脈上の問題がある。
- \* 「地の下にあるもの」、「地の下のあらゆる造られたもの」とは陰府の死者か。
- \* 仮にそうだとしても、礼拝をすることが救われていることを意味しない。
- \* 最大の問題は、聖書釈義の原則を無視している点である。

### 4．ペテロ 3：19

- \* 陰府に下ったと書かれていない。
- \* ノアを通してキリストが宣教したとも解釈できる。
- \* ここでも、聖書釈義の原則を無視している。

### 5．黙示録 20：12～15 白い御座のさばき

- \* 数々の書物と、「いのちの書」
- \* キリストを信じないで死ぬと、「いのちの書」から名が消される。
- \* これは、「小羊のいのちの書」とは異なる。13：8、21：27
- \* 裁きにも程度がある。

## 聖書が教える死

### 1. 死の意味

#### (1) 分離

ルカ 16 : 19 ~ 31 三人とも意識がある。

すべてアダムから始まっている。

創造主との分離 (霊的死)

肉体と魂の分離 (肉体的死)

創造主との永遠の分離 (第二の死)

最初の2つには解決の方法があるが、最後のものにはない。

#### (2) 霊的な死

創造主からの分離

生まれながらの人はこれに気づいていない。

例 : 正統派ユダヤ人、宗教熱心な人、いわゆるいい人

( コリント 2 : 14、エペソ 2 : 1 ~ 2 )

治療法 : キリストにあって霊的に生まれ変わる。

( ヨハネ 5 : 24、エペソ 2 : 5 ~ 6、コロサイ 2 : 12 )

#### (3) 肉体的な死

魂と肉体の分離 (ヤコブ 2 : 26)

原因は罪にある。( ロマ 5 : 12、創世記 5 章では誕生と死の繰り返し )

神の特別な介入がある人のみ、それを免れた。エリヤ、エノク

次は携挙の聖徒たち

治療法 : キリストにあって肉体的に復活する。

( コリント 15 : 22、ロマ 5 : 17、8 : 23 )

信者には、肉体の復活が約束されている。

#### (4) 第二の死 (永遠の死)

永遠の創造主からの分離 (霊的な死が永遠に決定されたもの)

「真っ暗なやみ」ユダ 13、「火の池」黙示録 20 : 14、21 : 8

原因 : 肉体的な死の前にキリストを信じなかった。

ヨハネ 8 : 24、使徒 4 : 12

## 2. キリストの死とその意味

### (1) 霊的な死：3時間続いた

最後にマタイ 27：46（詩篇 22：1 の引用）

「わが神」は、この時の1回だけ

「父」170回

「わたしの父」21回

「わたしは渴く」ルカ 16章の金持ちの言葉と同じ

神の怒りの体験、(第二の死の前味)ヘブル 2：9

その直後、霊的な復活あり。

神との関係の回復

「父よ、わが霊を...」

### (2) 肉体的な死：ヨハネ 19：30、ルカ 23：46

### (3) 死後の復活

蘇生と復活とは違う

ローマ 6：9、ヘブル 2：14、15

「死者の中から最初に生まれた方」コロ 1：18、黙示録 1：5

## 3. 信者の死

### (1) キリストが肉体的な死に勝利した。

ヘブル 2：9、ローマ 6：9

サタンが死の力を持っていた。(ヨブ記 1章、2章)

イエスは死の領域(サタンの領域)に入り復活した。

その際、「死とハデスとの鍵」を取り返した。(黙示録 1：18)

つまり、イエスが死とハデスの権威を持っているということ。

### (2) サタンは信者に関しては死の力を持っていない。

ガラテヤ 1：4、コロサイ 1：13

例外： コリント 5：1～5 除名された場合

キリストの大祭司としての働きの外に置かれる

(除名は三つのステップを通過して。マタイ 18章)

肉体の死が来ても、霊的な救いは残る。

「死に至る罪」とは、除名に値する罪 ヨハネ 5：16、17

(3) キリストが信者の死に責任をもつ。

テサロニケ 4 : 14

「眠る」の意味：肉体のことで魂ではない。信者についてのみ。

ヨハネ 11 : 11 ~ 14、使徒 7 : 60、マタイ 27 : 52、使徒 13 : 36、コリント  
15 : 6、18、20、51、テサロニケ 4 : 13 ~ 14、ペテロ 3 : 4

(4) 死の意味が変化した。

死は呪いであるが、祝福の要素あり。

キリストが初穂、私たちがそれに続く。

ピリピ 1 : 21、23、コリント 5 : 6 ~ 8、テモテ 4 : 6 ~ 8

(5) 死に対する勝利

霊的死に対する勝利は信じた瞬間に起こる。

テモテ 1 : 20

新生が失われることはない

肉体的死に対する勝利には、順番がある。

コリント 15 : 20 ~ 26

携挙（教会時代の聖徒）

旧約時代の聖徒（再臨の後）

患難期の聖徒（再臨の後）

コリント 15 : 54 ~ 57 「死は勝利にのまれた」

黙示録 20 : 4 ~ 15

信者は千年王国の初めに甦る。

未信者は千年王国の終わりに甦る。そして、第二の死。

## 結論

(1) 自殺者について

(2) 福音を聞かないで死んだ人について

死んだ人の最後は分からない。

裁きの基準はその人の業による。：ローマ 1 章 ~ 3 章

裁きの重さも異なる。：黙示録 20 : 12

(3) 人間的に満足な答えを出すことは不可能。

聖書が教える範囲でしか語れない。

(4) 神の愛と義に信頼する。

創世記 18 : 25、神は正しい